

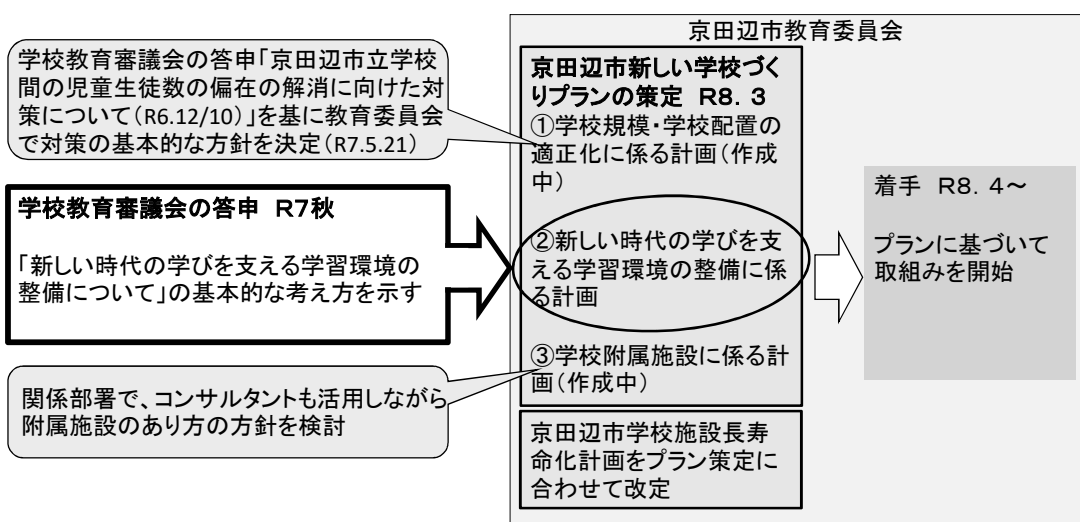
京田辺市学校教育審議会

令和7年度第2回審議会

305会議室

1

○審議の位置づけ



2

○新しい時代の学び

- 知識・技能を教える受動的な学習から、習得した知識・技能を使って、課題を見いだし、解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身につける能動的な学習へシフト
- 子ども主体の授業(教員だけが教える存在ではない。子ども同士で学び合う、学習課題、学習過程、学習形態が複線化した授業)により、主体的に学ぶ態度を促す
- 自らの進路(キャリア)を小学生のうちから自覚するよう促し、主体的に切り拓いていく態度の育成
→より一層協働的な学びを取り入れ、個別最適な学びを進める。
- 1人1台端末と通信ネットワークを基盤として、ICT活用により効果的な学習を促進
- 地域との連携で多様な考え等に触れる機会の創出

3

○新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方(観点)

R4.3学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議

「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体を学びの場として創造

- ①学校は、教室と廊下それ以外の諸室で構成されているものという固定観念から脱し、学校施設全体を学びの場として捉え直す。廊下も、階段も、体育館も、校庭も、あらゆる空間が学びの場であり、教育の場、表現する場、心を育む場になる。
- ②教室環境について、単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な活動に柔軟に対応していく視点(柔軟性)をもつ。
- ③紙と黒板中心の学びから、1人1台端末を文房具として活用し多様な学びが展開されていくように、学校施設も、画一的・固定的な姿から脱し、時代の変化、社会的な課題に対応していく視点(可変性)をもつ。
- ④どのような学びを実現したいか、そのためにどんな学び舎を創るか、それをどう生かすか、関係者が新しい時代の学び舎づくりのビジョン・目標を共有する。

4

○対応すべき課題

- 1 新しい時代の学びを支える学習環境の整備
- 2 多様な背景や特性のある児童生徒への対応
- 3 地域との連携

＋ 生活・安全面

今、次期学習指導要領が審議されており、情報活用能力の推進が一層求められる見通しである。

また、自らで学ぶ総合的な学習の時間も質の高いものが求められる。

5

意見聴取について

●児童・生徒アンケート

実施期間：令和7年5月1日（木）～5月20日（火）

対 象：市立小学校4～6年生、市立中学校1～3年生

内 容：児童生徒が、学校のよいところや直したほうがよいところについてアンケートを実施
・生活・安全面（教室、図書室、特別教室、その他施設の良さ・悪さ、プール跡地）

●教員アンケート

実施期間：令和7年5月1日（木）～5月20日（火）

対 象：市立小学校

内 容：先生方が新しい時代の学びをどう捉えて実践しているのか、それを推進するための学校施設・設備についてアンケートを実施
・3つの課題と生活・安全面

6

意見聴取について

●教員ワークショップ

先に実施したアンケート結果を基に、新しい時代の学びを支えるための学校施設整備に向けて意見を重点化整理したもの

実施期間: 令和7年6月13日(金)

対 象: 市立中学校教員

実施期間: 令和7年6月16日(月)

対 象: 市立小学校教員

7

意見聴取の結果: 新しい時代の学びに向けて

(これからの公立学校での学習において特に重点を置くべきこと)

順位	小学校	中学校
1	学力の向上(成績の向上)	コミュニケーション能力の向上
2	コミュニケーション能力の向上	学力の向上(成績の向上)
3	少人数教育の実施	不登校対策
4	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実
5	不登校対策	キャリア教育

教員に、23項目ある選択肢の中から3つまでに○を付けてもらい、選択が多かったものを順に並べ、5位までを表示したもの

- ・「学力の向上」、「コミュニケーション能力の向上」に、小学校、中学校ともに半数の教員が○を付けており、重要視している。
 - ・「特別支援教育の充実」や「不登校対策」も上位にきている。
 - ・小学校では「少人数教育の実施」、中学校では「キャリア教育」が上位にきているのが特徴である。
- これらを実現するための取組を尋ねたところ、教育内容を時代に合わせて充実させること、積極的な研修の実施、事務見直しによる教員の負担軽減等のソフト面が多く挙げられたが、学校施設の老朽化への指摘もあり、更新が必要というものであった。

8

新しい時代の学びに向けて

(今、取り組んでいること)

- 各学校においては、主に学級活動や総合的な学習の時間に、協働活動を含めた問題解決型の授業に取り組んだり、行事に取り組むまでを課題として考えさせる学習を実践している。対話や話し合いによって、新しい気づきを得て、深い学びとなることを重視している。
- 小学4年生になると、児童同士で話し合って学びを進めるようになる。また、それぞれにあった学びを行うようになる。
- 話し合いの単位は、4～5人である。
- タブレットが導入されたことで、他者の取り組みをそれぞれが確認することが容易に行えるようになった。(他者参照、相互参照できることで、見るだけでなく、必要に応じて話も行いやすく)
- タブレットだけでなく、ノートも組み合わせ、ICTも紙も使いながら学びを進めている。
- 外部講師による学習は学年単位の授業となり、体育館で行うことが多い。
- 学年活動や学年縦割り活動がある。
- インターネットを介して他の学校と連携して生徒会活動等を行ったことがある。

9

新しい時代の学びに向けて

(教室の課題)

- 人数が多く、教科書や学習用具等の全てを収納できず、机に物を掛けたりしており、机と机の通路が狭くなっているため、他者に話を聞きに行きにくい。
- 授業の途中で、机を合わせて話し合い活動する場面展開は、物が多い教室では難しい。音も気になる。
- あらかじめ話し合い等を行いやすい準備された部屋があって、使えると良い。多目的な2～3クラスが入れる大きな部屋が必要である。できることならば、プールの跡地にそういったものを設置して欲しい。
- タブレットでは画面が小さいので、班活動で共有する際、大きな画面があると良い。また、話し合いにホワイトボードがあるとまとめやすい。
- タブレットや教科書、ノート、筆箱を置くと机は一杯である。これらを十分に活用できるスペースがいる。
- 学年や外部講師を呼んでの大規模な人数での学習を展開する場所が体育館以外にない。
- 少人数での活動も必要であり、教室内を仕切れるとよい。

10

新しい時代の学びに向けて

(教室の課題)

- リアルとバーチャルの融合した学びが必要である。
- ネットで繋がった授業は今後考えられる。
- 制作した物をアウトプットできるよう、授業用のプリンターがあるとよい。
- 可動式の間仕切りの教室は、廊下も広くないと導入は難しいが、今の廊下は通行するだけで一杯である。
- ホワイトボードは良いが、焦点が定まりにくくなる子どももいるので4面はいらない。
- キャスター付きの椅子はいらない。遊んでしまうし、姿勢も良くなる。
- 天板の大きい机は、教室が大きくないと入りきらない。

11

新しい時代の学びに向けて

(諸室の課題)

- 授業にも使える学校図書室
欲しい、活用したいという教員は多い。調べ学習や書籍を使った授業展開には次の機能が必要である。
①学年が入れる大きさ、②4～5人で話ができるスペース、③移動しやすい机・椅子、④各班で使える可動式のホワイトボード、⑤プロジェクター等のICT設備
また、こういった場所があれば、委員会活動や生徒会活動等の特別活動として、放課後は自習室として利用できる。
- PCルーム
PCルームは使用頻度が低い、中学校のプログラミングの授業で使用するため、なくすことはできない。日常的に活用できる場所として、図書館と合わせてメディアルームができないか。
- 特別教室
理科室、音楽室、図画工作室(中学校では美術室・技術室)、家庭科室は、各教科で必ず使うので必要である。様々な道具の保管、また製作・実験・展示の場として必要である。
- 諸室へのICT機器
普通教室のように特別教室にもICT機器を設置してほしい。体育館には大型モニターがほしい。

12

新しい時代の学びに向けて

(諸室の課題)

- 更衣室

更衣室がなく、教室をやりくりして着替えている。安心して着替えができるスペースが必要である。

- 職員室

狭く、教員全員の机は確保できない。また、会議室がないため、職員室で会議をしている。

オンライン会議も一般的となってきたおり、複数重なる場合があるが、それらに対応する小部屋がない。

13

意見聴取の結果：多様な背景や特性のある児童生徒への対応

- 体調不良の児童生徒への対応は、保健室で対応している。

- 悩みを聴いて欲しいという児童生徒への対応も、保健室で対応している。

→体調不良の子がいる場合は、別で相談に乗ることになるが、部屋の確保が難しい。

- 登校して、すぐには教室に入れない子どもがいる。

→それぞれの子ども自身が落ち着くことのできる小さなスペースが必要である。なお、見守りが必要であり、個室とすることは安全面からよくない。

→畳やソファがあったり、ちょっと暗めの小さい部屋があると落ち着きやすくなると思われる。

- 試行設置している校内教育支援センターは不登校対策で成果を上げている。学校と児童生徒との関係構築の場となっており、不登校児童生徒は減少している。

→今は小学校1校、中学校1校しかなく、府の研究指定で実施しているが、R7で終了

→利用している姿を同級生には見られたくないなどがあり、設置場所、動線には配慮が必要である。

14

意見聴取の結果：地域との連携

順位	小学校	中学校
1	授業補助(ゲストティーチャー等)の推進	授業補助(ゲストティーチャー等)の推進
2	地域の施設等を利用した校外学習の推進	部活動・クラブ活動支援

学校の教育力向上に向けて、地域との協力関係で将来置くべき重点としては、小学校、中学校ともに、「授業補助の推進」が1位であった。

また、連携推進に向けては、ゲストティーチャーが授業可能な学年が入れる多目的教室、ボランティアの待機場所があるとよいとの意見があった。

小学校では、安全指導等の学校支援ボランティアを積極的に受け入れることも重点を置くべきとの意見が3番目であった。

15

意見聴取の結果：生活・安全面

(教員)

順位	小学校	中学校
1	児童生徒の収納スペース	児童生徒の収納スペース
2	トイレの使いやすさ	普通教室の広さ
3	机・椅子の使いやすさ	手洗い場の使いやすさ
4	手洗い場の使いやすさ	トイレの使いやすさ
5	床のきれいさ	床のきれいさ

児童生徒の収納スペース、トイレの使いやすさ、手洗い場の使いやすさが上位であった。

(児童生徒)

- ・普通教室：床(きれいさ)について、小中学生の3割ほどが、悪い・やや悪いであった。
- ・荷物置く場所(広さ)について、中学生の半数近くが、小学生の2割弱が悪い・やや悪いであった。
- ・特別教室：机・椅子(使いやすさ)について、小中学生の1割ほどが、悪い・やや悪いであった。
- ・設備：トイレの使いやすさ・きれいさについて、小中学生の4割ほどが、悪い・やや悪いであり、改善して欲しい意見が非常に多くあった。また、手洗い場もつかいにくいといった声が多くあった。
- ・あったらいいという施設は、小学生ではみんなで遊べる部屋、休憩室、中学生では、自習室、運動部屋が上位であった。

16

新しい時代の学びを支える学習環境の整備について

協議シートを元に、これからの学校に必要な機能を考えましょう